KOBE GAKUIN UNIVERSITY
神戸学院大学　人文学部
人文学科
教授　大原　良通（OHARA Yoshimichi）

■ テーマ名

# ６～10世紀における東アジア交流史 お茶の伝播

■ キーワード

唐、吐蕃、茶、交流、伝播、人文学

■ 研究の概要

６～10世紀における文化交流について研究しています。

時代の華やかさと異文化交流について、茶を中心に考察しています。唐代は陸羽が『茶経』を著し、それまでは薬として飲まれていた茶が、特別な飲料として認識されるようになった時代です。陸羽による宣伝効果は、さまざまな影響を及ぼしつつ東アジアに広がりますが、その本来の意図は何か、グローバル化をもたらした要因は何かを明らかにしようとしています。

今では世界中で飲まれている茶ですが、もとは中国の西南部から広がりました。そのグローバル化には二つの波があり、その一回目が唐代です。この時代に西はチベット、東は日本に伝わりそれぞれの土地に根付いていきます。どのように広がったのかを研究することは、異文化受容のシステム解明に寄与すると考えています。

＜研究成果の産業への展開例等＞

異文化理解や文化交流のあり方について。

情報や物の伝達方法やスピードについて。

異文化受容のあり方について。

■ 他の研究／技術との相違点

茶を茶道の歴史という観点からではなく、一般的な庶民の飲料としてとらえ、その歴史と文化伝播、発展を考察している。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

新たな商品がどのように広まっていき、一つの文化として発展するのか。グローバル商品として、大きな広がりを見せた茶を歴史的に跡付けることによって、何が世界に広がるのかという一つの指針を示す。

■ 関連業績（特許・文献）

『茶味』（茶味の会）。

■ 研究者から一言

歴史を学ぶことから、新しい気づきをもたらすことができると思います。